

ホーム名：グループホームジョイフル小路					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく普通の暮らし」を理念とし、職員全員がその理念の下、地域に密着したサービスを 実践している。	理念は内部研修の中で確認されている。	入居者の1人ひとりのこれまでの生活歴がどうであったのか、どんな生活を望んでいるのか、GHでの生活に馴染んでいるのか等、理念の持つ意味は深い。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域の花見や子供会での餅つき大会などに参加し地域の一員として日常的に交流している。	町会の行事に参加、運営推進会議での町会長からの情報提供、回覧板等での確認が日常的にある。夜警に参加している。	事業所開設8年目、地域とは馴染みの関係になってきている。今後、高齢者介護、認知症予防等に対する啓蒙活動に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ネットワークでの行事や町会の行事には必ず参加し地域に溶け込む事で活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見や要望・助言を頂きよりよいホームになるように活かしている。	2ヶ月毎に運営推進会議が行なわれ家族の参加もある。事業所における行事、研修内容等も報告されている。	事業所としての活動を具体的に紹介できる場として、他事業所の情報等も含め、看取りに関する経験等話し合いたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村・ケースワーカーとの連携にて事業所の実情・サービスなどを伝え協力関係を築くように務めている。	高齢福祉課の担当者の訪問はない。要請もしていない。	行政として、高齢者、認知症に対する知識、介護について理解、共有できる協力者として具体的な要請機会をつくられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事は重要事項にも記載している。職員会議などでも、より理解を深めるために、何度も確認し合っている。日中は玄関入り口のドアを施錠している。	身体拘束の経験はないが帰宅願望の強い入居者に対しては事故防止のため出入口は施錠している。	終末期を迎えた入居者に対する医療行為の中で入居者にとって一番の安楽選択支援ができる経験になるよう期待します。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういった行為が虐待になるかを話し合い、会議でも職員に周知し、日々のケアに努めている。又、ホームの玄関口には大きくポスターを掲示している。虐待防止の研修にも力を入れている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用した入居者様を通してスタッフもより深く理解し、今後に活かしている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に入居者様・家族様に契約書・重要事項を全文、読み上げ、疑問点の有無を何度も確かめ理解してもらった上で契約となる。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族様の普段なげない会話が意見・要望のサインだと察知それらを運営に反映させている。</p>	<p>行事への参加、運営推進会議等での具体的な意見も出されている。</p>	<p>利用者・家族がなんでも話ができる雰囲気づくり、定期的な面接の機会を作り意見を聞くなど、具体化される事を願う。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月一度の会議には代表者も参加し皆の意見や提案を聞き、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常的に意見を出すことができる。</p>	<p>管理者・スタッフのチームワークが改善され、努力されている姿があった。ケアに集中でき、明るい雰囲気が入居者に反映されることを期待します。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は職員個々の勤務状況の中で、努力・実績などを考慮し、いろんな形で反映し、皆がやりがいが持てるように務めてくれている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のスキルアップのためいろんな研修を推進している。費用は全額、会社負担で勤務シフトも考慮してくれる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域包括支援センターが主催するGH連絡会や研修などに積極的に参加し、他グループホームとも連絡を取り合い情報の交換を行っている。</p>		

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の困った事、不安な事などを本人や家族から何度も聞き、本人の気持ちを受け止め、安心した生活の確保に務めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族の困っている事や不安な事。希望・要望などを話し合い、お互いの信頼関係を築いていくように務めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず何から支援するかが優先かを見極めながら「その時」必要に応じたサービス利用に務めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>その人にあったケアをこころがけている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とは利用者が生活していく中で大事な存在です。職員は利用者や家族の絆を大切にしながら支えあう関係が築けるように務めています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>施設行事の案内状や年賀状。地域行事などで馴染みの関係が途切れないように務めている。</p>	<p>日帰り旅行に参加、家族に対する案内状を出すなども支援している。</p>	<p>1人ひとりの入居者にとっての馴染み、希望を把握、実現できるケアプランに繋がるよう期待する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、ソファや食事時の席の配置に気をつけお互い良い関係が保てるように務めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>相談や要望があれば出来る限りの協力支援は行う。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの主訴や生活暦を大切に「その人らしい」暮らしが継続できるように務めている。</p>	<p>生活担当を決め、きめ細かい変化を把握できるようにしている。</p>	<p>居室での生活変化が入居者の心の変化として現れることが多い、入居者のプライベートエリアでの行動量の把握は担当者にとって重要と思われる。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居前の情報や本人の生活暦を踏まえ馴染みの生活が長く続くように努力している。</p>	/	/
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の言動、心身状態など個人ケースに書き入れ、カンファレンスなどで情報を共有し把握する事に努めている。</p>	/	/
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の申し送りで変化の有無や情報を伝達し、それに対しアイデアなどがあれば会議にかけ、皆の意見を聞きながら介護計画に反映させている。</p>	<p>日常的には何でも連絡ノートを活用、計画にいかしている。月1回の会議で確認、会議には全員参加している。入居者個人ファイルには具体的な記録がある。</p>	<p>1人ひとりの入居者の変化を確認し、その人らしさの発見に近づく喜びを共有していただきたい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>本人のその日その時の状況を個人ケースに細かく書き入れ職員全員が情報を共有し実践した上で介護計画の見直しをしている。</p>	/	/
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族のニーズに答えるようにしている。他のサービスなどは臨機応変に取り組んでいる。</p>	/	/
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの今までの暮らしを支えてきた地域資源の把握によって心身豊かな生活が楽しめるよう現状の生活と協働できるように支援していく。</p>	/	/
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族同意にて施設のかかりつけ医で受診している。又、健康状態や心身の状態によって家族協力の元、適切な医療機関の受診を支援している。</p>	<p>医師の往診と看護師の訪問看護、歯科医師の往診が曜日を変えて週に1回ずつ有る。協力医療機関とは24時間体制での医療連携が可能である。入居された時にかかりつけ医は本人及び家族の意向に応じるがたい事業所の協力医療機関を指定される。</p>	<p>今後もきめ細かい医療的支援を継続されたい。高齢の入居者を持つ家族にとりそれは大きな安心に繋がっている。</p>

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>いつも同じ看護師さんなので、利用者の健康状態を把握している。看護師と顔馴染みなので本人や職員も気軽に相談できる事が日常の健康管理に役立っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>顔なじみの看護師さんが入院時に何かと面倒を見てくれる。又、訪問看護時や職員面会時に情報を得ている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の希望に出来るだけ添えるように話し合い確認し、見取りまで支援して行くように務めている。</p>	<p>終末期に向けた本人、家族の希望と医療機関、事業所の指針の確認書をしっかり残すと同時に「施設サービス計画書」にも希望する看取りのあり方を明記している。現在事業所として看取り体制に入っている。</p>	<p>管理者をはじめ職員が終末期の看取りなどに関して医師から研修を受け学んでいる事は家族の大きな安心に繋がる。現在事業所としては初めての、終末期の体制に入っているが、最後まで温かい支援を全員の協力のもとで期待している。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時や急変など、職員は初期対応がすみやかに行えるようにする。又、そのために訓練の場を設け実践力を身に付ける努力をしている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>ホームでは年2回の消火・避難訓練をしている。スプリンクラー・自動火災報知機も設置済</p>	<p>年2回の訓練のうち1回は消防との共同で行っている。建物の構造上1階ではあるが避難は2箇所の出入口になる。夜間想定訓練もしていてスプリンクラーも設置している。</p>	<p>地域の人との関係がとても良いということなので、今後もいざという時の助け合いも含めて地域の中の事業所という協力関係を築いて行きたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長く築きあげてきた生活暦の中には本人の自尊心や誇りがある。職員は一人ひとりの人格を尊重し言動に注意している。	家族の話や本人との会話からこれまでの生活で興味のあったこと等の情報を得たり、日常のいろいろな場面で自己決定をしてもらう中で少しずつその人を知り、人格の尊重に繋げていこうとしている。	一人ひとりに寄り添って話を聞き出しそれを職員同士で共有するのは難しいことではあるがその人の一番輝いていた時を知ることで現在の状況をより深く見ることにも出来る。今後も個性を大切に見守っていきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でさりげなく本人の希望や思いを表出し、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のその日の体調・気分などを観察しゆっくりと落ち着いた、一人ひとりの希望に沿った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや・季節に合った衣類をセットし本人にさりげなく着替えてもらう。理・美容などは好みの店に通えるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態を把握しできることは手伝って頂くように務めている。	食事介助のマニュアルも数多く準備している。食材は業者から届き職員が調理する。行事食は趣を変えて楽しんでもらっている。食事を摂りにくい人の為にちょうど良い椅子を購入し高さ調整にも台を置くなどして考慮している。	非常に細かく気配りしながら食事介助されている。しかし一斉に食事開始にはならなくとも、食事の途中で話し出す人や先に食べてしまう人などいろいろな状態の人がいて当たり前という大らかな食事タイムの持つ楽しさについてもまた検討願いたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	一日の摂取量を個人ケースに記録し、利用者の好みにも合わせ何種類かの水分を摂取してもらうように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1/Wの訪問歯科でのケアや毎食後の口腔ケア、就寝前のケアにと個別に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄習慣を心がけ、自立に向けての支援を行っている。	個人ケースファイルにより排尿、排泄のチェックをし、管理しながら声かけや着替えに注意してトイレの介助をしている。トイレの自立の方の割合が多い。	今後も温かい介助、支援を続けられたい。トイレの自立ができていの方が多いので後の水洗状況などについては出来るだけ確認が必要と思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、繊維質や消化の良い食品を食べ易く、水分補給も時間毎に、散歩や買物・ラジオ体操などで体を動かしているが、駄目な時はDrに相談しながら対処している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく本人の希望に沿うようにしているが、その時の体調などを考慮しながらしている。	浴室には「湯」の文字と向日葵の絵が楽しい大きな暖簾がかけられている。明るく清潔な風呂場である。	月に4回は入浴剤を入れる日であったり、足浴時にミントの香を付けるなど暖簾と共に出来るだけ楽しく入浴してもらうように工夫している。心身共にリラックス出来る入浴をこれからも期待する。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>馴染みの寝具を使用し安眠できるようにセットする。本人の好きな時間に臥床してもらう。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人ケースに服薬中の説明書を添付し、薬の目的、用法、用量、副作用などを正しく理解し症状の変化などに対応できるように医師の指導の上で支援している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>毎日がマンネリにならないように、その人に合った役割を持ってもらう。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩・買物には日に何度も出かける。外食にも年に2回でかけ、好きなものを注文してもらう。又、地域行事のバス旅行、病院と共同でのバス旅行などでかけたりしている。</p>	<p>事業所の周りや、近所の公園に行ったり、車椅子でスーパーに買物に行くなど、一人ひとりに合わせて日常の中に外気に触れる機会を作るようにしている。</p>	<p>春夏秋冬の空気を感じてもらえるよう事業所前の花壇を最大限利用し、野菜や花をたくさん植えて、目で楽しみながら外気に触れられるよう工夫される事を期待する。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個別に対応している。必要時にはホームが立替、本人に持たせて、買物の楽しみを味わってもらう。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が電話や手紙の希望があれば個別に対応し支援している。あらかじめ家族に了解済み</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の場での不快な音や光などの刺激物は取り除き全体が明るく温かみのあるように配慮している又、皆の目の付く所に自分たちで作ったカレンダーで季節がわかる。</p>	<p>食堂、居間は時々、家具の配置を変える等して皆で楽しんだり、一人静かに過ごしたり出来るような空間づくりに配慮している。風呂場の入口や居室の入口に暖簾を利用し温かい雰囲気を出すよう工夫している。</p>	<p>食事時以外、ずっとテレビを観ていることなく「グーチョキパー体操」他各種ゲームを取り入れ楽しい時間を過ごせるよう工夫している。毎日のおやつの後にもリハビリ体操を行いレクリエーションを一人のスタッフに任せるのではなく全てのスタッフで盛り上げるよう協力し合っているのはとてもいい事だと感じる。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ひとり用のソファや少し離れたところに2人用のソファがある。一人になりたい時や来客があった時、気が合う物同士が気楽に過ごせる居場所を作っている。</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が今まで使っていた使い慣れた物、馴染み深い物を持ってきてもらい、安心した中で生活ができるように工夫している。</p>	<p>居室には今までの生活の中で馴染んできた家具等、出来るだけ持ち込んでもらうよう家族に伝えている。大切な家族の写真や遺影を飾られている部屋もある。</p>	<p>入居者にとっては職員は第二の家族であり居室は自宅の自分の部屋であるので多角的な観察力により心から居心地よく過ごせるような部屋作り、温かい支援を今後も更に続けられる事を期待する。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>風呂場には銭湯の暖簾をし、他の場所には分り易く大きな字で書いて貼っている。又、安全な生活を送ってもらうためにも環境整備にも気をつけている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいの ③職員の3分の1くらいの ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいの ③家族の3分の1くらいの ④ほとんどできていない